

プレスリリース
2025 年
3 月 28 日

関係各位
全 5 枚



コレクション展開催のお知らせ

開館 20 周年記念 コレクションの在りか—現在地をみつめて

2025 年 4 月 12 日（土）—6 月 29 日（日）

約 8,900 点に及ぶコレクションの中から、選りすぐりの名品をご紹介します！

長崎県美術館は 2025 年 4 月で開館 20 周年を迎えます。当館ではこれを記念し、コレクションから選りすぐりの作品を掲載した『長崎県美術館コレクション選』を刊行します。本展は、同書に掲載される 155 点の所蔵品からさらに厳選した作品約 120 点を常設展示室全室にわたって展示するものです。

長崎県美術館のコレクションは前身である長崎県立美術博物館の収蔵品の一部を引き継いだところから出発しています。そして私たちは開館以来、「長崎ゆかりの美術」「須磨コレクションを起点とするスペイン美術」をふたつの柱とし、ときには足りないものを補うように、またときには新たな領野を拓くように、20 年間をとおしてコレクションの拡充につとめてきました。

本展ではピカソ、ミロ、ダリなどコレクションを代表する著名な作家による作品はもちろん、長崎県立美術博物館の時代から愛されてきた名品から近年の新収蔵作品に至るまで、当館コレクションのエッセンスを味わうことのできる作品の数々が並びます。約 8,900 点（2024 年 3 月末時点）に及ぶ当館のコレクションの精華をぜひお楽しみください。



①



②

①トラルバの画家《洗礼者聖ヨハネ》1430 年頃、テンペラ・板（須磨コレクション）

②津上みゆき《View, the passage of time, Nakashimagawa River, 1:10pm 8 Oct 18 / 2019》2019 年、

顔料、アクリル、その他・カンヴァス（2 枚 1 組）©Miyuki Tsugami, courtesy of ANOMALY 撮影：三嶋一路

■本展のみどころ

1 スペイン美術

「須磨コレクションを起点とするスペイン美術」は、全国各地に数多くある美術館のなかで当館を大きく特徴づけている最大の要素です。須磨コレクションとは、第二次世界大戦時に特命全権公使としてスペインに派遣された須磨彌吉郎（1892-1970）が現地で収集した作品群のこと。1970年にこれらのうち一部が長崎県に寄贈されたことを端緒とし、長崎県では1980年以降、須磨コレクションを核としてピカソ、ミロ、ダリといった20世紀美術の巨匠たちをはじめとするスペイン美術の収集をおこなってきました。当館でもこの方針を引き継いで収集を重ねており、東洋有数の規模を誇るスペイン美術コレクションが形成されています。本展でも15世紀のスペインで制作された宗教絵画から今なお活躍を続ける現代作家に至るまで、幅広い時代にわたる作品をご覧ください。

- ③フアン・カレニョ・デ・ミランダ
《聖アンナ、聖ヨアキム、洗礼者聖ヨハネのいる聖母子》
1646-55年頃、油彩・カンヴァス



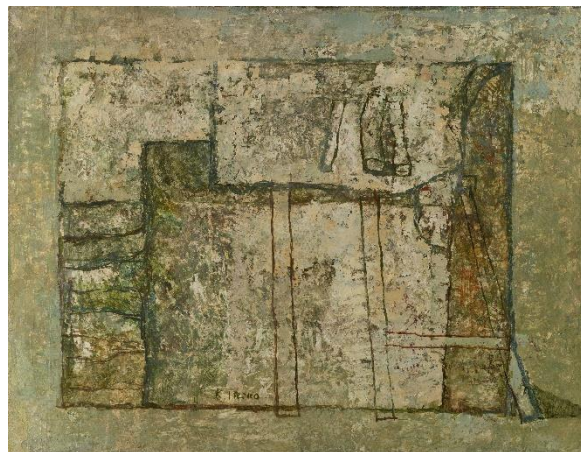
- ④フランシスコ・デ・ゴヤ
《マドリード闘牛場の無蓋席で起こった悲劇と
トレホーン市長の死》（『闘牛技』21番）、
1814-16年頃、
エッチング、アクアティント、ラヴィ、エングレーヴィング、
ドライポイント、バーニッシャー・簀目紙



- ⑤ホセ・グティエレス・ソラーナ
《怪しげな仮面》
1925年頃、パステル、鉛筆・紙（須磨コレクション）

2 長崎ゆかりの美術

当館における「長崎ゆかりの美術」とは、主に明治時代以降における、長崎県出身者による作品、長崎で制作された作品、長崎を主題とする作品など、何らかのかたちで長崎とのかかわりを持つ作品のことを指します。当館では開館以来、「長崎の美術」シリーズをはじめ、長崎ゆかりの作家や美術動向の顕彰に取り組んできました。現在のコレクションのなかには、展覧会活動を通して収蔵に至ったものも少なくありません。コレクションは調査研究や展覧会も含む、美術館のあゆみを物語るものともいえるのです。油彩画、日本画、工芸、彫刻、版画、写真など、多様なジャンルを横断する、バラエティに富んだ作品の数々をお楽しみください。



⑥池野清《貧しい家》1957年頃、油彩・カンヴァス



⑦



⑧

⑦栗原玉葉《尼僧（童貞）》1920年、絹本着色

⑧青木野枝《雲谷／長崎》2019年、鉄（溶断、溶接）

©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY

撮影：山本糾

⑨中里三猿《染付浮上鶴鳴図花筒》1928年、磁器

⑩森永純《河（〈河一累影〉より）》1960年、ゼラチンシルバープリント

©Jun Morinaga



⑨



⑩

｜ 招 待 券 ｜

本展をご紹介いただける場合に限り、読者・視聴者プレゼント用招待券（最大 10 組 20 名様まで）をご用意しています。ご利用を希望される場合は、当館広報までお問い合わせ下さい。

広報用画像のご提供について

本リリースに掲載している画像①～⑩を広報用にご用意しています。ご利用を希望される場合は、媒体名、発行日、ご担当者名、連絡先、ご希望の画像番号を記載の上、長崎県美術館広報宛に FAX またはメールにてご連絡ください。

【画像使用の注意事項】

※画像の使用は、本展をご紹介していただける場合に限りです。※掲載にあたっては事前校正が必要です。ご依頼はお早めをお願いいたします。※画像のキャプション及びクレジットは必ずご掲載ください。
※画像のトリミングや文字載せは不可。※二次使用禁止。使用後は速やかに画像データを破棄ください。
※掲載終了後は、掲載出版物を当館広報宛にお送りください。

■関連企画

■オープニング・レクチャー

「コレクションの在りか：スペイン美術／長崎ゆかりの美術」 ※当日受付

日時 | 4 月 12 日 [土] 14 : 00-15 : 30 (開場 13 : 30)

会場 | ホール

講師 | 稲葉友汰、松久保修平 (長崎県美術館学芸員)

定員 | 先着 100 名

参加費 | 無料

■学芸員によるギャラリートーク ※当日受付

日時 | 4 月 26 日 [土]、5 月 10 日 [土]、5 月 24 日 [土]、6 月 14 日 [土]、6 月 28 日 [土]

各日 14 : 00 -

会場 | 常設展示室

定員 | 各回先着 20 名程度

参加費 | 無料 (要本展観覧券)

■『長崎県美術館 コレクション選』刊行

開館 20 周年を記念し、コレクションから選りすぐりの作品 155 点を掲載した『長崎県美術館コレクション選』を刊行します。

発売日 | 4 月 11 日 (金)

サイズ | A4 変形 (H260mm×W210mm)

価 格 | 3,000 円 (税込)

期間限定 開館 20 周年記念 無料ご招待&記念品プレゼント

下記の期間、本展に無料でご入場いただけます。また、記念品として当館オリジナルチケットホルダー（非売品）を各日先着 100 名様にプレゼントします。

期 間 | 4 月 12 日（土）～4 月 23 日（水）

記念品配付場所 | 常設展示室入口

■開催概要

【展覧会名】開館 20 周年記念 コレクションの在りかー現在地をみつめて

【会 期】2025 年 4 月 12 日（土）～6 月 29 日（日）

【開館時間】10：00～20：00（最終入場は 19：30）

【会 場】長崎県美術館 常設展示室 全室

【休 館 日】4 月 14 日（月）、5 月 12 日（月）・26 日（月）、6 月 9 日（月）・23 日（月）

【観 覧 料】一般 420（340）円、大学生・70 歳以上 310（250）円、小中高校生 210（170）円

※開館 20 周年記念として、4 月 12 日（土）～23 日（水）は入場無料にて観覧いただけます。

※県内在住の小・中学生は無料。

※学校行事の一環として、県内の小・中・高・特別支援学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害福祉サービス受給者証、地域相談支援受給者証、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証提示者及び介護者 1 名は無料。

主 催 | 長崎県、長崎県美術館

後 援 | 長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK 長崎放送局、NBC 長崎放送、KTN テレビ長崎、NCC 長崎文化放送、NIB 長崎国際テレビ、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎

長崎県美術館（公益財団法人長崎ミュージアム振興財団）広報担当：奥村、井上 / 学芸担当：松久保
〒850-0862 長崎市出島町 2 番 1 号 Tel：095-833-2110 Fax：095-833-2115
e-mail：info-k@nagasaki-museum.jp <https://www.nagasaki-museum.jp>